

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4年 3月 29日

事業所名 川崎市中央療育センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	いいえ 4 △ 1	・空いている部屋を使って食事場面を分けたり、小さい部屋を使う場合は、グループを分けて活動している。	・定員が最初に少ないクラスは小さい部屋を使用するため、年度途中から通園児が増え、コロナ禍では10名クラスを狭い部屋で行うのは難しかったが、活動内容を工夫した。
	②	職員の配置数は適切であるか	3	13		・コロナ禍で休みを余儀なくされることがあり職員の人数が不足していたことに加え、年度途中に人員の動きがあり配置の変更がなされることがあったため、次年度に向け安全な療育が提供できる体制整備を実施した。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	15	1		・講座（保護者が参加できるもの）のご案内について、掲示板だけでなく他の媒体を通じて伝えるなど、情報伝達の課題を整理して改善につなげる。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	16			
業務 改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	13	3	・クラス毎に毎回振り返りを行い次につなげている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	16			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	15	未記入 1		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	15	1		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	14	2		・新人、中堅、リーダーとそれぞれの階級別研修が必要であるため、通園スーパーバイザーやコーチング等の方法により研修を実施した。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	16		・常勤職員のみになりがちなため、非常勤含めクラス全体で共有していけるように工夫している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	14	2		・目安になるものがあればよいため、今後に向けて適切なツールを探していく。

適切な支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	16			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	16			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	14	2	・クラス職員で検討している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	16			
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	16			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15	1		
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	16			
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	16			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	16			
関係	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12	いいえ2 未記入2		
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	15	未記入1		
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	11	いいえ2 未記入3		・地域で支援していくためには幼稚園や保育所、ケア会議などの協力体制作りが必要であるため、引き続き地域連携を実施していく。
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	13	いいえ1 未記入2		

機 関 や 保 護 者 と の 連 携	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	16			
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	15	未記入 1		・小学校就学時の引継ぎは学校によりやり方が異なるため、それを踏まえた準備を行っている。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	5		
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	いいえ10 未記入 1		・コロナ禍で最近は実施していないが、必要性があるため、次年度も相手先の保育園等と実施方法を検討していく。
	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	いいえ 5 未記入5		
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	16			
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	13	いいえ 2 未記入1	・療育内で伝えている。	
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	15	1		
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	16			
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	16			
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	11	いいえ3 未記入 2		
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	15	未記入 1		
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	15	1	・クラスだよりで対応している。	
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意しているか	16			

	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	16			・外国籍の保護者に対する個別の配慮が必要であるため、必要に応じて通訳の派遣をお願いするなどの配慮をしていく。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	いいえ9 未記入2		・コロナ禍により行事が中止になっているが、今後の収束状況を見ながら再開していく。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	13	3		・点検した結果、適宜実施しているものと、実施できていないものがあるため、今後に向けて保護者等に周知するとともに、職員には訓練を実施する。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	16			
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	16			
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	16			
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	16			
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	16			
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	16			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。